

公開講座報告

スポーツ講座

「子どもにおける“からだ”と“うごき”と“こころ”づくり教室」

相澤 勝治（経営学部教授）、渡辺 英次（文学部教授）、木村 元彦（専修大学職員）

スポーツ講座「子どもにおける“からだ”と“うごき”と“こころ”づくり教室」では、レスリングを教材として週3回実施しており、継続してジュニアレスラーの体力・運動能力測定を実施している。本年度も例年同様に体力・運動能力の測定を実施した。この測定は、年2回実施しており、測定項目は、体格は身長、体重、体脂肪率、座高であった。体力・運動能力は、20 m走、立ち幅跳び、反復横跳び、垂直跳び、リバウンドジャンプ指数であった。また、レスリング競技の運動様式を取り入れた体力・運動能力として、タックルジャンプ及びレスリングシャトルランを評価した。測定結果のフィードバックは過去の測定結果と結合し、子どもたちの形態面、体力・運動能力面の成長が一目でわかる用紙を用いて行った。子どもたちだけでなく保護者の理解を深めるために測定のフィードバックを実施している（写真1）。また、専修大学少年少女レスリング教室出身者がブルガリア共和国で行われたカデット（16・17歳）レスリング世界選手権大会53キロ級で銅メダルを獲得選手、全国少年少女レスリング大会優勝選手らが川崎市長を表敬訪問した際の記事がタウン誌に掲載された（写真2）。



写真1



写真2